

| | | | | | | |
|----|----------|----------|--------------------|-------------|-------------|------------------------|
| 目次 | CEOメッセージ | CSOメッセージ | コーポレートパーパス / ESG特集 | 日産のサステナビリティ | 日産のSDGsへの貢献 | ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス |
| 環境 | 社会性 | ガバナンス | ESGデータ集 | 本レポートの編集方針 | GRI内容索引 | 投資家向け索引 |

地域社会への貢献

GRI102-11 GRI103-1 GRI103-2 GRI203-1

地域社会への貢献の方針・考え方

日産は、自動車メーカーとして魅力ある製品やサービスを世界中の人々に提供することに加えて、その特徴を生かしながらコミュニティの一員として主体的に社会にかかわり貢献することも、企業の重要な使命だと考えます。

企業がさまざまな資源を地域社会に提供し、コミュニティの活性化や課題の解決に積極的に参画することは、企業市民としての責務を果たすというだけでなく、企業活動にとっても有益であり、より良い事業環境や持続的に成長する市場を生み出すことにつながります。

日産は、複雑化する社会課題に対応するため、非営利組織（NGO・NPO）や行政などさまざまなステークホルダーと連携し、相互の強みを生かしながら活動を展開しています。こうした社会貢献活動の方針をグローバルに共有するとともに、国や地域により異なるニーズに対応するため、各国の事業拠点や関連会社による独自の取り組みも行っています。

地域社会への貢献の取り組み

日産は2017年に社会貢献活動の方針を見直し、「環境」「交通安全」「ダイバーシティ（多様性の尊重）」の3分野において重点的に活動を推進していくことを決めました。自動車メーカーとして真摯に取り組むべき「環境」と「交通安全」に加え、企業として重んじる価値観として「ダイバーシティ」を推進することで、「よりクリーンで安全、そしてすべての人に平等な機会が与えられる社会」を目指します。

活動の実施においては、金銭的な支援だけでなく、自動車メーカーとしての知識や専門技術、自社製品、関連施設の活用など、日産が事業を通じて培った資源を十分に生かし、独自性の高い活動を展開します。

活動をより実効性の高いものにするため、日産は、活動分野において高い知見と専門性を持つNGO・NPOとの対話と協働を重視しています。

また、多くの従業員が社会に関心を持ち、活動に自発的に参加できるように、従業員の社会貢献活動をサポートしています。

「よりクリーンで安全、そしてすべての人に平等な機会が与えられる社会」を目指して



| | | | | | | |
|----|----------|----------|--------------------|-------------|-------------|------------------------|
| 目次 | CEOメッセージ | CSOメッセージ | コーポレートパーパス / ESG特集 | 日産のサステナビリティ | 日産のSDGsへの貢献 | ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス |
| 環境 | 社会性 | ガバナンス | ESGデータ集 | 本レポートの編集方針 | GRI内容索引 | 投資家向け索引 |

GRI103-2

地域社会への貢献のマネジメント

日産の生産拠点はグローバルに拡大し、事業を推進するうえでコミュニティとのさまざまなかかわりが生じています。日産では自社の経営資源を提供してこれらのコミュニティの発展に貢献することは、事業環境の向上や市場の成長にもつながると考え、積極的に社会貢献活動を実施しています。活動に当たっては、グローバル方針を決定し、各地域で実行しています。

現在は、2017年に改訂した方針で定められた「環境」「交通安全」「ダイバーシティ」の3つの重点分野を中心に、それぞれの地域のニーズに応じて、多岐にわたる活動を展開しています。

推進体制

グローバル・サステナビリティ・ステアリング・コミッティなどで議論・決定された日産の社会貢献活動方針はグローバルに共有され、各国・地域の活動もこの方針に沿って実行されます。

社会貢献プログラムの活性化に向けた3つの重点分野

重点分野「環境」

日産は、環境理念「人とクルマと自然の共生」を掲げ、環境負荷削減に意欲的に取り組んでいます。社会貢献活動においても「環境」への取り組みが重要であると考え、地球環境問題への理解を深める教育プログラムの実施など低炭素社会の実現に向けたさまざまな活動に取り組んでいます。

2017年より、国際的な環境保全団体とのパートナーシップを強化し、環境NGOコンサベーション・インターナショナルとの協働によりインドネシアで森林保全プログラムを実施したほか、環境保全団体のWWFジャパンと連携し、気候変動分野での教育・啓発活動に取り組んでいます。

重点分野「交通安全」

日産は、自動運転技術の搭載をはじめとするクルマそのものの安全性向上はもちろん、ドライバーや歩行者の安全意識を高める啓発活動や、子どもや高齢者といった社会的弱者を守る取り組みも実施するなど、交通安全の推進に取り組んでいます。

| | | | | | | |
|----|----------|----------|--------------------|-------------|-------------|------------------------|
| 目次 | CEOメッセージ | CSOメッセージ | コーポレートパーパス / ESG特集 | 日産のサステナビリティ | 日産のSDGsへの貢献 | ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス |
| 環境 | 社会性 | ガバナンス | ESGデータ集 | 本レポートの編集方針 | GRI内容索引 | 投資家向け索引 |

重点分野「ダイバーシティ(多様性の尊重)」

日産は、ダイバーシティを企業の競争力を高める重要な要素と捉え、経営戦略のひとつに位置づけています。社会貢献活動もこの考えに則り、貧困の削減、社会的・経済的に恵まれない人々への支援、自然災害による被災者への緊急支援などを実施しています。また、国際NGOハビタット・フォー・ヒューマニティとの協働で人道支援活動に取り組んでいるほか、2019年も国際NGO ケア・インターナショナル ジャパンとのパートナーシップを継続し、タイで行っている教育プログラムの活動を拡充しました。

事業を営む地域への貢献

日産は、事業を行う地域の一員として地域社会に積極的にかかわり、地域の方々に、「ここに日産があって良かった」と思われるような良き企業市民でありたいと願っています。地域のイベントに協力するほか、清掃活動など事業所周辺の環境を向上させる活動、自社施設の開放など、さまざまな形で地域貢献活動を行っています。また、従業員もボランティアとして積極的に地域の活動に参加しています。

このような平時における取り組みとともに、世界中で多発する自然災害発生時には、地域社会への支援を行い、社会課題の解決に寄与しています。

| | | | | | | |
|----|----------|----------|--------------------|-------------|-------------|------------------------|
| 目次 | CEOメッセージ | CSOメッセージ | コーポレートパーパス / ESG特集 | 日産のサステナビリティ | 日産のSDGsへの貢献 | ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス |
| 環境 | 社会性 | ガバナンス | ESGデータ集 | 本レポートの編集方針 | GRI内容索引 | 投資家向け索引 |

GRI103-3 GRI201-1 GRI203-2

地域社会への貢献の実績

2019年度の社会貢献活動の実績

2019年度 グローバル社会貢献支出額：約16.1億円

社会貢献支出には以下の費用を含む

- ・社会貢献活動費は社会貢献活動を実施するために支出した経費（労務費は除く）
- ・寄付は社会貢献を目的とした現金寄付および非営利組織の年会費などの支出
- ・現物寄付は金額に換算
- ・スポンサーシップ・その他は社会貢献を目的とした各種イベントなどのスポンサー費

2019年度 グローバル社会貢献支出額(内訳)

| | 社会貢献活動費 | 寄付 | 現物寄付 (金額換算値) | スポンサーシップ その他 | 合計 |
|---------|---------|------|-----------------|-----------------|-------|
| 金額(百万円) | 549 | 741 | 60 | 264 | 1,614 |
| 比率(%) | 34.0 | 45.9 | 3.7 | 16.4 | 100 |

| | 災害名 | 2019年度実績 |
|-----------------|-----------------------|--|
| 自然災害被災地に対する主な支援 | 台風15号による大規模停電(日本) | <ul style="list-style-type: none"> ・日産自動車より停電地域で電気自動車「日産リーフ」からの電力供給を行うため、車両53台と可搬型給電器をセットで、自治体や福祉施設などに提供 |
| | 台風19号による豪雨被害(日本) | <ul style="list-style-type: none"> ・日産自動車よりNPOジャパン・プラットフォームに支援金1,000万円を寄付 ・日産自動車従業員による募金を実施、会社が同額を上乗せしてNPOジャパン・プラットフォームに寄付 ・日産自動車より、被災地へ車両計68台を無償貸与、いわき市へ従業員ボランティア派遣(延べ275名) ・日産自動車と販売会社より、「日産リーフ」からの電力供給を行うため、長野市災害ボランティアセンターに車両4台を無償貸与 |
| | 火山噴火による被災地支援(フィリピン) | <ul style="list-style-type: none"> ・フィリピン日産より「ナバラ」3台を寄贈 |
| | 新型コロナウイルス対策支援(中国) | <ul style="list-style-type: none"> ・日産自動車、日産(中国)投資有限公司、東風汽車有限公司は、500万円の義援金ならびに10万枚のマスクを寄付 |
| | テネシー州での竜巻による被災地支援(米国) | <ul style="list-style-type: none"> ・北米日産会社より15万USドルを米国赤十字社に寄付 |

| | | | | | | |
|----|----------|----------|--------------------|-------------|-------------|------------------------|
| 目次 | CEOメッセージ | CSOメッセージ | コーポレートパーパス / ESG特集 | 日産のサステナビリティ | 日産のSDGsへの貢献 | ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス |
| 環境 | 社会性 | ガバナンス | ESGデータ集 | 本レポートの編集方針 | GRI内容索引 | 投資家向け索引 |

環境

日産の特色を生かした環境出張授業（日本、英国、中国、ブラジル）

日本では、自動車製造業ならではの知識や技術を生かした3種類の体験型教育プログラムを2007年から実施しています。いずれも小学校高学年の児童を対象に、日産従業員が講師となって学校を訪問して行います。

そのひとつである「日産わくわくエコスクール」*は、地球環境問題への理解を深めるとともに、日産の環境への取り組みを紹介し、モデルカーを用いた実験や、「日産リーフ」の試乗などを通じて最新の技術を体験するプログラムです。この受講を通じて、児童が環境問題を身近に捉え、日々の生活における自身の行動を振り返ることを目指しています。

好評につき日本での実施回数は年々増加し、開始以来、同プログラムの日本での受講者数は累計で約10万名を超えました（2020年3月末現在）。同プログラムでは小学校を訪問して授業を行うほか、栃木、いわき、横浜、追浜、九州の各工場にあるゲストホールでも講座を実施しています。また、2019年度までに販売会社スタッフ130名を講師として養成し、全国各地の店舗やイベントへ活動の場を広げました。

海外においては、サンダーランドの英国日産自動車製造会社（NMUK）が、小学生から中高生を対象に多岐にわたって教育プログラムを展開する「日産スキルズ・ファンデーション」の1つとして、環境教育を提供しています。「エコスクール」と呼ばれるこの環境教育では、生徒たちは環境問題やNMUKの風力

発電の仕組みなどを6時間かけてじっくり学びます。

中国では、日産（中国）投資有限公司（NCIC）をはじめとする合弁会社4社がUNESCO中国の協力を得て、インターネットを活用した授業である「日産ドリーム・クラスルーム」を展開しています。全部で6モジュールありますが、その中の「ECO教室」では、環境についての学習に加え、電動モーターの仕組みを学び、モデルカーを使った実験も行います。

2019年度、ブラジル日産自動車会社（NBA）は環境教育の一環として「Escola Verde（緑の学校）」を同社工場が所在するレゼンデ市近郊の小学校で実施しました。参加者は地球温暖化問題に加えて、雨水の活用方法や食物の多様性についても学びました。さらに授業の一環として校庭で野菜を育て、食育を通じた自然との共存を身近に体験し、家庭でも環境について話し合うことができました。Escola Verdeは授業を受けた児童や先生のみならず近郊の小学校の先生や、地域住民の環境意識が高まるという効果も期待できます。



Escola Verde（緑の学校）に参加する生徒たち

*「日産わくわくエコスクール」に関する詳細はこちらをご覧ください

<https://www.nissan-global.com/JP/CITIZENSHIP/ECO-SCHOOL/>

| | | | | | | |
|----|----------|----------|--------------------|-------------|-------------|------------------------|
| 目次 | CEOメッセージ | CSOメッセージ | コーポレートパーパス / ESG特集 | 日産のサステナビリティ | 日産のSDGsへの貢献 | ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス |
| 環境 | 社会性 | ガバナンス | ESGデータ集 | 本レポートの編集方針 | GRI内容索引 | 投資家向け索引 |

世界自然保護基金ジャパン (WWF ジャパン) との連携 (日本)

日産は、WWF ジャパンと協力関係を結び、WWF ジャパンが実施する気候変動プロジェクトの支援を行っています。また、WWF ジャパンにて「日産わくわくエコスクール」で使用する教材の監修を行い、共同のイベント開催を企画するなど多方面にわたる連携を進めています。WWF 主催の環境啓発キャンペーン「Earth Hour 2020」に賛同し、各国の従業員への消灯アクションの呼びかけ、国内外の日産の事業会社で消灯アクションの参加を行いました。

コンサベーション・インターナショナル (CI) とのパートナーシップ (インドネシア)

日産と環境NGO コンサベーション・インターナショナル (CI : Conservation International) は、インドネシア共和国バリ島の都市部に水を供給する重要な水源地でありながら、環境劣化が著しいアグン山周辺において、森林を再生する活動を2017年に開始しました。山間部の森林保全を行うことにより、河川流域および沿岸部の環境改善を目指す包括的なアプローチで、行政や地域



3,000株の白檀の苗木を育て、2020年1月に植樹

コミュニティの住民と連携し保全活動を行っています。また、地域住民の収入源の拡大に取り組み、育成した植物を利用した商品の開発、販売ルートの確保を支援しています。

ユニークな環境教育プログラム「アーバン・グリーン・ラボ」(米国)

北米日産会社 (NNA) は、テネシー州ナッシュビルのNPO法人アーバン・グリーン・ラボ (UGL) を支援しています。同団体は、子どもたちに自分自身の生活に関連づけながら「環境に配慮した持続可能な生活」を考えさせ、学ぶ機会を提供しています。日産の支援に加え、バンダービルト大学内のピーボディ教育大学および環境保護局の協力を得て、UGLは持続可能な生活と廃棄物削減に関して、テネシー州で初となる州規模のカリキュラムを開発。ナッシュビルとメンフィスの公立学校で授業を導入しています。また、2019年度にはナッシュビルの57校で教員グループによる「学習コミュニティ」が立ち上げられ、183名が研修を受けました。UGLと日産は、コミュニティの健全な発展と貴重な天然資源に対する共通の関心や価値観を抱いており、特別なパートナーシップを結んでいます。毎年、NNA本社ではUGLと協力して子ども向けの楽しいイベント「Kiddovation」を開催。日産タイタンXDをベースにUGLが制作した「モバイル・ラボ」を持ち込み、従業員の子どもたちがサステナブルな暮らし方を学び、家庭でも保護者と実践できるように図っています。

| | | | | | | |
|----|----------|----------|--------------------|-------------|-------------|------------------------|
| 目次 | CEOメッセージ | CSOメッセージ | コーポレートパーパス / ESG特集 | 日産のサステナビリティ | 日産のSDGsへの貢献 | ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス |
| 環境 | 社会性 | ガバナンス | ESGデータ集 | 本レポートの編集方針 | GRI内容索引 | 投資家向け索引 |

交通安全

国際自動車連盟（FIA）とのパートナーシップ（グローバル）

日産は、国際自動車連盟（FIA）が提唱する交通安全啓発キャンペーン「FIA アクションフォアロードセーフティ」のオフィシャルサポーターとして、同キャンペーンの一環である安全運転のためのルールをまとめた「FIA ゴールデンルール」の周知に協力し、安全運転の大切さを広く呼びかけています。

地域の子どもたちの安全を守る「ハローセーフティーキャンペーン」（日本）

事業所周辺地域における交通安全啓発活動の推進に寄与するため、日産は、日本において1972年から実施している交通安全活動「ハローセーフティーキャンペーン」の一環として、1987年より従業員募金を実施しています。会社からの寄付金を加え、地域の交通安全協会や自治体などを通じて、主に



新潟大学と共同で創案した「ハンドルぐるぐる体操」

各事業所近隣の児童に対し、交通事故防止に役立つ物品を寄贈しています。また、高齢ドライバーの安全走行を促進・啓発するため、新潟大学とともに、

2019年度に「ハンドルぐるぐる体操」を制作しました。本体操は、主に高齢ドライバーが日々の生活の中で運動習慣をつけることにより、筋力と認知力を高め安全走行できるように支援するもので、日産と新潟大学が共同でコンセプト検討を行い、新潟大学が体操の内容を創りました。

ダイバーシティ

<すべての人に平等な機会が与えられる社会へ>

ケア・インターナショナルとの協働による教育プログラム（タイ）

日産は、タイ王国アユタヤ県およびラヨン県において、中学・高校生を対象とした教育プロジェクト「理数系（STEM）教育を通じたリーダーシップ育成プログラム」を2017年から開始しました。地域の学校と協働して行う授業では、リーダーシップやチームワークなど、コミュニティの発展を担う



理数系（STEM）教育を通じたリーダーシップ育成事業

リーダーとして必要な資質を身につけるほか、科学・技術・工学・数学（STEM: Science、Technology、Engineering、Mathematics）の要素も授業内容に取り入れています。また、職業技能訓練も取り入れ、特に女子学

| | | | | | | |
|----|----------|----------|--------------------|-------------|-------------|------------------------|
| 目次 | CEOメッセージ | CSOメッセージ | コーポレートパーパス / ESG特集 | 日産のサステナビリティ | 日産のSDGsへの貢献 | ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス |
| 環境 | 社会性 | ガバナンス | ESGデータ集 | 本レポートの編集方針 | GRI内容索引 | 投資家向け索引 |

生の支援を重視しています。2018年度からは授業実施校にタイ日産自動車会社 (NMT)の事業拠点近郊のサムットプラカーン県の学校を加え、同社の従業員もボランティアとしてプログラムやワークショップに参加するなど、重要な役割を担っています。2017年の開始以来、アユタヤ、ラヨン、サムットプラカーン県の10校で1,400名以上の生徒がプログラムを受講し、生徒たちによるプロジェクトも60以上が実施されています。

ハビタット・フォー・ヒューマニティとのパートナーシップ (北米)

NNAは、2005年よりNGOハビタット・フォー・ヒューマニティ(ハビタット)との協働を継続しています。同団体は、「誰もがきちんとした場所で暮らせる世界」を理念に掲げ、家を建てたり改修したりすることで、地域コミュニティの活性化を図り、人々の希望を築く国際支援団体で、世界約70ヵ国以上で住居建築や自立支援に取り組んでいます。

2005年にパートナーシップを締結してから、NNAとハビタットは135家族以上を支援し、安全かつ手ごろな価格帯の持続可能な住居を提供してきました。この中で、NNAの従業員はこれまで



NNA 従業員のボランティアチーム

に延べ11万6,000時間を超える住居建築のボランティア活動を実施しています。また、日産カナダ財団は2008年よりハビタットとのパートナーシップを締結しており、これまでに1,400名以上の販売会社およびカナダ日産自動車会社 (NCI)の従業員が9,000時間を超えるボランティア活動を実施し、ハリファックスからバンクーバーまで50軒の住居を建築しました。日産カナダ財団のハビタットへの寄付は累計100万カナダドルを超え、NCIにおける社会貢献活動の重要な成果となっています。

地域と協働で障がい者スポーツ大会を開催 (日本)

2019年12月、「第20回日産カップ追浜チャンピオンシップ 2019 (全国車椅子マラソンin 横須賀)」*を地域関係諸団体との協働運営で開催しました。本大会は、2000年に始まった車椅子陸上競技の総合大会で、障がい者スポーツの普及と競技者の技術向上のほか、地域の活性化と「やさしい街づくり」支援を目的としています。追浜工場内のテストコース「GRANDRIVE」と京浜急行追浜駅間の公道を使用したロードレースでは、延べ198名の選手が参加しました。また、延べ337名の従業員ボランティアは地域のボランティアとともに実行委員に加わり、ロードレース運営、コース準備やコース統制を行い、大会運営をサポートしました。

*「日産カップ追浜チャンピオンシップ」に関する詳細はこちらをご覧ください

<https://www.nissan-global.com/JP/CITIZENSHIP/NISSANCUP/>

| | | | | | | |
|----|----------|----------|--------------------|-------------|-------------|------------------------|
| 目次 | CEOメッセージ | CSOメッセージ | コーポレートパーパス / ESG特集 | 日産のサステナビリティ | 日産のSDGsへの貢献 | ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス |
| 環境 | 社会性 | ガバナンス | ESGデータ集 | 本レポートの編集方針 | GRI内容索引 | 投資家向け索引 |

モノづくりの魅力を伝える取り組み（日本、中国、英国など）

日産は、モノづくりの楽しさや奥深さを将来世代に伝えたいと考え、さまざまな取り組みを行っています。日本では日産の従業員が小学校を訪れ、モノづくりの魅力を伝える出張授業「日産モノづくりキャラバン」や「日産デザインわくわくスタジオ」*を実施、両プログラム合わせて年間約2万2,000名の子どもたちが受講しています。中国ではNCICをはじめとする事業会社が授業を行っています。

「日産モノづくりキャラバン」は英国のサンダーランド工場でも実施しており、学校の授業期間中は週5日でプログラムを実施し、年間4,500名以上の小学生を受け入れています。

英国では、2014年に日産スキルズ・ファンデーションを設立し、2019年11月までに地域の6万名以上の生徒に、さまざまなプログラムを提供、未来のエンジニアと製造を担う人財の育成を推進しています。

日産スキルズ・ファンデーションは、STEMを学ぶ外部の3つの国際的な教育プログラム「VEX IQ robotics」、「FIRST Lego League」「F1 in schools」に機材や資金、知見などを提供して地元チームを支援しています。2019年には日産が支援したチームは上記の国際大会に出場し、優秀な成績を収めています。また、英国で高い評価を受けている教育プログラム「Industrial Cadets」では、13歳から14歳の生徒に製造やエンジニアリングのプロフェッショナルと交流する機会を提供しており、これまで2,100名以上が参加し、同ファンデーションの中心的な取り組みとなっています。さらに女性のキャリア開発に焦点

を当てたプログラム「GIMME (Girls in Monozukuri, Manufacturing and Engineering)」および「GIMME Booster」を通じて、ダイバーシティの浸透にも取り組んでいます。このプログラムでは、女子生徒にキャリアの選択肢を示し、製造やエンジニアリング関連への就職を支援しています。これらの女子生徒向けセッションにはこれまでに2,000名以上が参加し、全プログラムの女子参加率は46%となっています。

2019年には、3年生(6-7歳)向けの新しい施策として、現地の学校に教材ボックスを提供しています。箱の中には、プログラムに必要な教材



日産スキルズ・ファンデーションによる女子生徒のSTEM教育の推進

や、マニュアルなどが梱包されているほか、だるまの作成キットもあり、気軽に日本の文化を学ぶことが可能となっており、会社の歴史などについても楽しく学べる内容となっています。

その他にも多数の国で、車両やエンジンを大学や専門学校に教材として寄贈し、学生の知識や技術向上に貢献しています。

*「日産モノづくりキャラバン」「日産デザインわくわくスタジオ」に関する詳細はこちらをご覧ください

<https://www.nissan-global.com/JP/CITIZENSHIP/VISITINGSCHOOL/>

| | | | | | | |
|----|----------|----------|--------------------|-------------|-------------|------------------------|
| 目次 | CEOメッセージ | CSOメッセージ | コーポレートパーパス / ESG特集 | 日産のサステナビリティ | 日産のSDGsへの貢献 | ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス |
| 環境 | 社会性 | ガバナンス | ESGデータ集 | 本レポートの編集方針 | GRI内容索引 | 投資家向け索引 |

子どもたちや若者への教育支援（中国）



甘肅省での「日産ドリーム・クラスルーム」

NCICは、小学生を支援する教育プログラム「日産ドリーム・クラスルーム」を2013年から実施しています。授業内容と実施地域を徐々に拡大し、現在では環境、モノづくり、デザイン、塗装、インテリジェントドライビング、自動車文化や工学の基礎、日産のディーラー向けの特別プログラムなど、多彩な授業を提供しています。2015年からは中国国内の事業会社計4社で授業を実施しており、年々規模を拡大し、活発に教育支援活動に取り組んでいます。

NCICは「日産ドリーム・クラスルーム」の活動を、日産のディーラー各社のほか、北京自動車博物館や、地元の自動車ショーなどの協力を通じて、さまざまな機会を提供しており、2019年末までに50万名以上の生徒が参加しました。2019年12月には、「日産ドリーム・クラスルーム」の受講生である中国甘肅省武威市の小学生と学校関係者、および甘肅省ユネスコ協会のメンバー67人が日産自動車本社と追浜工場を訪問し、「日産ドリーム・クラスルーム」で学んだことをより深く理解できる機会が実現しました。

次世代の科学者やエンジニアを育成（米国）

NNAは米国における教育の取り組みとして、小学校から大学までの学生たちが自動車産業に不可欠なSTEMの4分野に親しむことを奨励するさまざまなプログラムを支援しています。

2つの主力工場があるテネシー州では、全米で開催されるロボット競技大会「BEST* ロボティクス」のナッシュビル大会をサポートしています。同大会では、学生チームが簡易的な建材などの決められたキットを使ってロボットを設計・製作し、3分間で与えられた課題に挑戦します。2019年度は302名の学生が競技に参加。22名の日産従業員がボランティアとして出場チームを指導し、競技審判を務めました。リアルワールドで生じる技術的な問題を、プロジェクトベース型の大会で解決する体験は、学生の技術理解力を高め、キャリアの方向性を描くための絶好の機会となっています。



「ミュージック・シティ BEST
ロボティク・コンペティション 2019」

* BEST :Boosting Engineering Science and Technology の略。「工学・科学技術の振興のための」の意味

| | | | | | | |
|----|----------|----------|--------------------|-------------|-------------|------------------------|
| 目次 | CEOメッセージ | CSOメッセージ | コーポレートパーパス / ESG特集 | 日産のサステナビリティ | 日産のSDGsへの貢献 | ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス |
| 環境 | 社会性 | ガバナンス | ESGデータ集 | 本レポートの編集方針 | GRI内容索引 | 投資家向け索引 |

「日産セレナ」を通じて開発途上国の子どもたちに給食を届ける 「おにぎりアクション」

日産自動車は「日産セレナ」を通じて、NPO 法人 TABLE FOR TWO International (TABLE FOR TWO)の「おにぎりアクション」にトップスポンサーとして協賛しています。同団体は、開発途上国の子どもたちに給食を届けることを通じ、食の不均衡の解消を目指しています。「おにぎりアクション」はおにぎりの写真をSNSなどに投稿すると、アフリカ・アジアの子どもたちに給食5食が届く取り組みです。「日産セレナ」が持つ「子どもの可能性を広げる“家族のためのミニバン”であり続けたい」という思いが、この活動の理念に合致し、2018年より協賛を行っています。「日産セレナ」独自の活動として、1投稿で通常の2倍の10食分の給食を届ける取り組みや、全国の日産のお店にご来店されたお客さまに参加を呼びかけ、2年間で約11万食（おにぎりアクション全体では265万食）の給食を届けました。「おにぎりアクション」は、



給食が入ったカップを手にする子どもたち

その活動が評価され、2019年に「ジャパンSDGs アワード」SDGs 副本部長（外務大臣）賞を受賞しました。

事業を営む地域への貢献

東日本大震災への対応（日本）

福島県広野町と浪江町で従業員によるボランティア活動を実施

日産は、2011年の東日本震災発生直後からさまざまな支援を行い、従業員による復興支援活動を継続しています。2019年度も前年度に続き福島県双葉郡で活動を実施し、複数の事業所から26名の従業員が参加しました。福島県いわき市に拠点を置く「いわきおてんとSUN 企業組合」と協力し、広野町で防災緑地の整備作業やオーガニックコットン畑の整備などを行い、浪江町では駅周辺の除草、植栽を行いました。また、津波の被災地となった請戸地区を訪問し、浪江町の8割を占める帰還困難地域をバスで視察しました。



広野町と浪江町で実施した復興スタディツアー

| | | | | | | |
|----|----------|----------|--------------------|-------------|-------------|------------------------|
| 目次 | CEOメッセージ | CSOメッセージ | コーポレートパーパス / ESG特集 | 日産のサステナビリティ | 日産のSDGsへの貢献 | ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス |
| 環境 | 社会性 | ガバナンス | ESGデータ集 | 本レポートの編集方針 | GRI内容索引 | 投資家向け索引 |

被災地の子どもたちに笑顔を

日産は、被災地の子どもたちが笑顔を取り戻すことを目指して2011年に「日産スマイルサポート基金」を設立しました。遊びや自然体験を中心としたプログラムに加え、フリースクールや居場所づくり事業、地域への理解や愛着を深める学びの場の提供など、年月とともに変化する被災地の課題に即した活動を支援しています。岩手、宮城、福島で独自に活動している10のNPO団体がプログラムを行っています。

その他の自然災害への対応

台風 15 号による大規模停電（日本）

2019年9月、台風15号の影響で発生した大規模な停電が続く千葉県内の避難所や福祉施設で「日産リーフ」が走る蓄電池としての真価を発揮しました。日産自動車は、「日産リーフ」計53台と可搬型給電器（パワームーバー）を自治体、福祉施設、保育園などに配備し、電力供給支援を行いました。主に熱中症対策用の扇風機と情報取得のための携帯電話機の充電に利用され、夜間には給水先を照らす灯光器の電源となりました。また、携帯電話機の充電には、従業員が提供した携帯充電コード50本も活用されました。

台風 19 号による豪雨被害（日本）

2019年10月に発生した台風19号の災害では、豪雨により被害を受けた方々に対して、1,000万円の活動支援金寄付とともに、従業員募金やマッチングギフトを寄付しました。いわき市では、従業員がボランティア活動を実施し、またいわき市および郡山市への延べ68台の車両貸与を行いました。また、日産自動車と長野日産自動車株式会社は「日産リーフ」からの電力供給を行うため、車両4台を長野市災害ボランティアセンターに貸与しました。

火山噴火による被災地支援（フィリピン）

フィリピン日産（NPI）は、2020年1月に発生したタール火山噴火により被害を受けた方々を支援するため、フィリピン赤十字社に「ナバラ」3台を寄贈しました。

新型コロナウイルス対策支援（中国）

2020年1月、新型コロナウイルス対策支援として、日産自動車、日産（中国）投資有限公司（NCIC）、中国における合弁会社である東風汽車有限公司（DFL）は、500万円の義援金ならびに10万枚のマスクを寄付しました。

テネシー州での竜巻による被災地支援（米国）

2020年3月に発生した竜巻により被害を受けた方々に対して、北米日産会社（NNA）は、15万USドルを米国赤十字社に寄付しました。

| | | | | | | |
|----|----------|----------|--------------------|-------------|-------------|------------------------|
| 目次 | CEOメッセージ | CSOメッセージ | コーポレートパーパス / ESG特集 | 日産のサステナビリティ | 日産のSDGsへの貢献 | ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス |
| 環境 | 社会性 | ガバナンス | ESGデータ集 | 本レポートの編集方針 | GRI内容索引 | 投資家向け索引 |

財団による支援（米国、オーストラリア、ブラジル）

米国では、社会における「多様性」を促進するための教育活動に対して資金提供を行う「日産ファンデーション」を通じて多くのコミュニティを支援しています。1992年の設立以来、日産ファンデーションは米国全土の150以上のNPO法人に対して1,150万ドル以上の寄付を行ってきました（2020年3月末現在）。2019年度は、全米の30の団体・機関に対して74万ドルの寄付を行いました。

豪州日産自動車会社（NMA）は、2016年4月に社会貢献活動を目的とした「日産オーストラリア財団」を設立しました。2017年度より、オーストラリア国内の中小規模の慈善団体に資金提供を行い、活動の拡大や継続を後押ししています。また、NMAでは、従業員が地域社会貢献のために毎年ボランティア休暇を取得できる制度を導入し、従業員の社会貢献活動を奨励しています。

また、ブラジル日産自動車会社（NBA）は2013年に設立した社会貢献活動を目的とした財団「インスティテュート・ニッサン」の活動内容を見直し、従業員のボランティア活動推進プログラムを刷新するなど強化を図りました。2019年度に、リオデジャネイロの主要地域への社会貢献を支援するさまざまなステークホルダーと協業し、環境教育や地域社会活動、オープンイノベーションなど多岐にわたるプログラムを策定しました。

公益財団法人日産財団による教育支援（日本）

公益財団法人日産財団*は「人材育成を通じて、豊かな未来社会の実現を目指します」というビジョンのもと、人材育成事業を行っています。財団事業

の柱のひとつは理科教育助成で、子どもたちの論理的あるいは科学的思考能力の向上を目指す小中学校や理科学研究会を対象に1件当たり70万円助成し、2年間の教育実践のための教材費などに活用されています。また、助成期間に多大な成果を上げた学校には「理科教育賞」を授与し、助成校相互の研鑽と活性化を図っています。また、2018年度より、日本国内の小中学校や博物館などの教育施設において、女子児童・生徒の理科への興味関心を顕著に高めた取り組みに対して、「日産財団リカジョ賞」として褒賞を行っています。

さらに、2019年度より新たに未来人材育成事業がスタートし、その一環として早稲田大学との共同研究に基づく未来のリーダー教室プロジェクトを立ち上げました。

* 日産財団の活動に関する詳細は日産財団のウェブサイトをご覧ください

<https://www.nissan-zaidan.or.jp>

オックスフォード日産日本問題研究所による日欧相互理解促進（英国）

1981年、日産の寄付により英国オックスフォード大学内に設立されたオックスフォード日産日本問題研究所*は、欧州における現代日本研究の主要拠点のひとつとして広く知られ、日欧の相互理解の促進に寄与しています。

* オックスフォード日産日本問題研究所に関する詳細は当研究所のウェブサイト（英語のみ）をご覧ください

<https://www.nissan.ox.ac.uk/>